

城端線・氷見線の直通化の課題の整理

城端線・氷見線の直通化については、両線の運行改善及び利便性向上につながる重要な手段であることから、連携計画において「城端線・氷見線の直通化の課題整理」が位置付けられており、平成24年度より継続して調査を実施してきたものである。

これまでの調査で、ダイヤ、施設の運用、管理、駅構内作業等の状況が不透明ではあったが、現時点で知りうる情報をもとに、現状の平面図上にて配線計画を検討し概算事業費の算定や課題整理を実施し、平成25年度調査では、この費用に対する効果を検証するため、費用対効果分析を実施した。

平成27年度は、北陸新幹線開業後の駅乗降客数調査やOD調査を実施し、直通化により期待される効果等の調査を実施した。

1 期待される効果等

交流人口の拡大

- ・現在、連携中枢都市圏形成に向けた協議が進められている富山県西部の将来構想等を描く場合、今後の人口減少時代にあって持続可能な地域社会を形成していくことが大前提となる。
- ・そのためにも鉄道沿線を軸とした交流人口の拡大は、県西部地域全体の大きなテーマであり、地域交通の背骨ともいえる城端線・氷見線の直通化は、首都圏とのアクセシビリティを向上させる強力な交流ツールとなる。

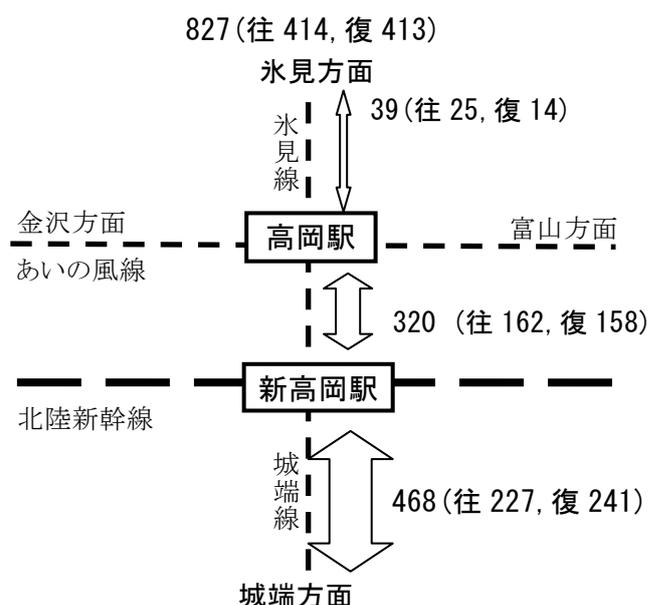
- ・氷見方面へも新幹線駅から1回の乗継ぎでアクセスが可能となることで個人旅行者等の取り込みなど、新高岡駅を拠点とした首都圏方面と県西部地域との交流人口拡大に寄与することが期待される（現状は、富山駅、新高岡駅のいずれの駅に降りても、氷見方面へは、高岡駅での乗換えが必要となっている）

- ・交流人口の拡大によりG R P（地域総生産）の押上げが期待できる。

地域生活利便性向上

- ・城端・氷見線の日常利用者にとっても乗換抵抗が無くなり、利便性の向上及び地域間交流の拡大が図られる。

新高岡駅の利用者数（人/日）



出典：平成27年度城端・氷見線利用状況調査

2 今後の予定

直通化により交流人口の拡大、G R Pの押上げ、地域生活利便性向上等の効果が期待できるものの、平面交差による直通化は、安全性に考慮したダイヤ編成、ダイヤの弾力性、運行経費等の課題がある。それらの解決に向けて関係者間で調整を行いながら、検討を深めていくことが必要となる。

今後は、直通化概算整備費の検証やダイヤシュミレーションなど、直通化に向けた検討・調査を実施する。